2012 年度ノースイースタン大学短期留学、ニューヨーク・ワシントン DC 研修報告

明治大学 政治経済学部 特任准教授
松崎武志（引率教員）

明治大学政治経済学部では、8 月の約 1 ヵ月間、過去 3 年に引き続き、アメリカ東海岸での研修プログラムを実施しました（※プログラム修了者には、GPA に算入される 4 単位の単位認定がなされます）。旅程は、まず、ボストンにある明治大学協定校ノースイースタン大学（NU）に約 2 週間滞在し、その後、ニューヨークに約 1 週間、そして最後にワシントン D.C.に 1 週間弱、それぞれ滞在しました。政経学部生の 25 名が参加をし（※他学部生の参加も認めていますが、本年度の参加者は全て政経学部生でした）、TA1名と政経学部教員の松崎が引率をしました。

ノースイースタン大学（ボストン）滞在

ノースイースタン大学（NU）（写真 01）での主な活動は、NU 教授陣によるレクチャーの受講と NU 生との交流でした。NU 教授陣によるレクチャー（※もちろんすべて英語）は、計 18 回受けました（※6 名の教員がそれぞれ 3 講義を担当）。教員ごとの講義テーマは、ナショナリズム、環境問題、都市持続性について、そして、アメリカの国家作用、外交政策、社会問題についてでした（写真 02-07）。NU 生との交流につきましては、ビーチに連れて行っていただいたり、バーベキューパーティを開いていただいたりするなど、終始、手厚い歓待を受けました（写真 08-10）。また、フェンウェーパークでの MLB レッドソックス戦のチケットも予約していただき、今年は幸運にも、相手チーム先発ピッチャーがダルビッシュ投手でした（※ダルビッシュ投手は打ち込まれ負け投手になりましたが）（写真 11）。

以上の他にも、ボストン滞在中は、NU 到着翌日にレセプション昼食会を開いていただき、アカデミック・アドバイザーの Justin Repici 氏、インターンの山口知子氏からはアメリカの大学におけるキャンパスライフについてプレゼンテーションをしていただき、さらに、前期中に NU 生を日本に引率された Christopher Bosso 教授は、マサチューセッツ州議会やマサチューセッツ・ヒストリカル・ソサイエティへの訪問手配をしてくださり、訪問の際には同行もしてくださいました（写真 12-14）。ボストン滞在終盤には大六野耕作政治経済学部学部長もいらっしゃり、学部長には、ボストン滞在の最終日前日に実施した日米比較の英語プレゼンテーション会をオブザーブしていただきました（写真 15-17）。

[01] NU キャンパス

[02] NU Prof. Bellino による環境問題講義

[03] NU Prof. Vicino による都市持続性講義

[04] NU Prof. D'Agati によるナショナリズム講義

[05] NU Prof. Rabrenovic によるアメリカ社会問題講義

[06] NU Prof. Schmitt によるアメリカ外交講義

[07] NU Prof. Tolley によるアメリカ国家作用講義

[08] NU 生とのスポーツ交流

[09] NU 生とのバーベキュー・パーティ①

[10] NU 生とのバーベキュー・パーティ②

[11] フェンウェイ・パークでの MLB 観戦

[12] マサチューセッツ州議会前での NU Prof. Bosso（中央奥）との記念撮影

[13] マサチューセッツ州議会

[14] マサチューセッツ・ヒストリカル・ソサイエティでの Peter Drummey 司書による館内案内

[15] ボストン最終英語プレゼン①

[16] ボストン最終英語プレゼン②

[17] ボストン最終英語プレゼン③

ニューヨーク滞在

ニューヨークでは、自由の女神、セントラル・パーク、ロックフェラー・センターといった観光名所を訪れることはもちろんのこと、メトロポリタン美術館、ブロードウェー・ミュージカル、ジャズといった文化的側面も堪能し、また、ニューヨーク証券取引所やグラウンド・ゼロにも足を運びました（写真 18-25）。SOHO エリアでのショッピングを楽しむ学生も多かったようです。国連本部も訪問し、館内ツアーを受けるだけでなく、IAEA ディレクターの Geoff Shaw 氏より原子力エネルギー問題、核兵器問題についてブリーフィングをして頂きました（写真 26-28）。また、コロンビア大学も訪問させて頂き、日本経済に精通されている Hugh Patrick 教授から特別にお話を聞かせて頂き、その後、キャンパス・ツアーも受けさせて頂きました（写真 29-30）。

[18] ニューヨーク地下鉄ホーム

[19] 自由の女神クルージング

[20] メトロポリタン美術館

[21] ロックフェラー・センター展望台からの摩天楼夜景（中央奥はエンパイア・ステイト・ビルディング）

[22] タイムズ・スクエア

[23] ブルー・ノートでのジャズ鑑賞①

[24] ブルー・ノートでのジャズ鑑賞②

[25] ニューヨーク証券取引所

[26] 国連本部

[27] 国連本部館内ツアー

[28] 国連本部からの“国連切手”を用いてのポストカード投函

[29] コロンビア大 Prof. Patrick による講義

[30] コロンビア大キャンパスツアー

ワシントン D.C.滞在

研修最終地となったアメリカ合衆国首都ワシントン D.C.では、ホワイトハウス、ワシントン記念塔、スミソニアン博物館、リンカーン・メモリアルといった主要観光スポットでアメリカの歴史を体感しつつ（写真 31-32）、世界銀行と日本大使館を訪問させて頂きました。世界銀行では、世界銀行日本代表理事室の高村泰夫日本理事代理より、日本と世界銀行、そして資金提供側からみた世銀、という観点でブリーフィングをして頂き、職員の畑島宏之氏、松平忠承氏、菅原直剛氏からも、国際公務員職の実務内容や採用までのプロセスなど、多角度から貴重なお話を聞かせて頂きました（写真 33-35）。日本大使館では、藤崎一郎駐米特命全権大

使を表敬訪問させていただき、大使からは直々に、貴重なお話を学生にして頂きました（写真 36）。大使館ではまた、参事官・広報文化班長の安藤俊秀氏からも日本の外交問題についてブリーフィングをして頂ました。日本帰国前日夜には、宿泊先のホテルにて、英語での最終スピーチを行い、また 1 か月間生活を共にした仲間同士で打ち上げを行いました（写真 37-41）。

[31] ホワイトハウス

[32] ワシントン記念塔

[33] 世界銀行 高村氏からのブリーフィング

[34] 世界銀行 畑島氏からのブリーフィング

[35] 世界銀行勤務・明大政経 OB 菅原氏との食事会

[36] 藤崎駐米特命全権大使（２列目中央）との記念撮影

[37] ワシントン DC 滞在ホテルでの打ち上げ会

[38] 英語での最終スピーチ①

[39] 英語での最終スピーチ②

[40] 英語での最終スピーチ③

[41] ワシントン DC 滞在ホテルでの打ち上げ会（2 次会）

おわりに

以上のとおり、本プログラムは稀にみる盛りだくさんの短期海外研修プログラムですが、本プログラムを成功させるにあたっては、政治経済学部の大六野耕作学部長、高橋一行教務主任、武田巧国際交流委員会委員長をはじめとする国際交流委員会委員の諸氏、政治経済学部事務、そしてその他多くの明治大学関係者より、多大なるご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げたく存じます。また、上記諸氏の他にも、Suzanne Ogden 教授をはじめとする NU スタッフ諸氏、NU 大学院卒業生の Corey Maillette さん、NU 学部生のみなさん、コロンビア大学の水村笑子氏、日本大使館の阿部録明氏、山本茉希氏には、大変お世話になりました。引率教員として、明治大学政治経済学部を代表し、諸氏にも、感謝の意を表したく存じます。そして、本研修プログラムの成功は、過去のプログラム参加学生そして国際交流サポーターによる実績の積み重ねの賜物でもあります。彼らにも感謝の思いで一杯です。

最後になりますが、本プログラムは来年度も開催予定です。明大生のみなさん、是非、参加を検討してみてください。次年度プログラムの説明会は、後日、開催されます。興味のある学生は、Oh-o! Meiji や掲示板等で開催告知を確認するようにしてください。過去の本プログラム報告書に目を通しておくこともよいと思います（※**2009 年度研修の報告**、**2010 年度研修の報告**、**2011 年度研修の報告**）。また、研修参加を希望する学生には、前期開講の留学準備講座も併せて履修しておくことを強くお勧めしておきます。

★研修参加学生の声（抜粋）

最後に、以下、長くなりますが、本年度の参加メンバーによる振返りレポートからの抜粋です。実際に参加した学生の生の言葉が一番、伝わると思います。是非、ご一読ください。

総合感想

（J さん）私はこの留学に対して、長期留学の前の準備段階という気持ちで臨んでいます。１つも知識がない海外への留学に対して抱いていたイメージは、「難しい、身近ではない、レベルが高い、なかなかできない」といったもので、１年間の留学に挑戦してみたいと思いつつもなかなか踏み出せずにいました。そこで今回の研修は、その準備段階として、とても有意義なものと思い、留学への理解と英語力の向上を目標に参加しました。

（G さん）この研修では、日本ではできないことをたくさん経験し、刺激に溢れた日々を仲間と過ごし、行く先々で多くのことを学びました。アメリカで過ごした日々は、かけがえのない時間であり、人生で最も充実した時間でした。今回の研修で学んだことを忘れず、この先もどんなことにも貪欲に挑戦し続けていきたいです。ありがとうございました。

（O さん）この研修を通して、今回の研修は今後のさらなる海外留学・進学へのステップを踏むためのものであるということがわかりました。実際研修前はこの研修だけでもう留学は十分だと思っていましたが、今ではこの研修だけで終わらせたくはないという気持ちが強くなっています。どういう形であれ、また海外、特にアメリカに来て勉強や仕事をしたいと思います。そのために今は、英語力を上げることと政治やその他の知識教養を高めるために日々勉強していきたいと思います。

（S さん）今回のプログラムを通して自分の中で一番大きく変化したこととは、自分の仕事や人生に対してより広い視野を持って向き合うことができるようになったということである。今までの私は日本の、しかも大学生という比較的狭い環境の中で過ごし、小さな視野での考えしか持つことができなかったし、それを自ら広げようとも思わなかった。しかし、自宅を離れアメリカという異国で一ヶ月あらゆる事を見聞きしたことで、殻を破って挑戦してみることの面白さ、そして時にその困難さを体験することができた。

（C さん）1 か月間を通して物事を見る視野が広がったと感じています。ボストンで講義を受けていた時も、5 月も含めてノースの学生と話していた時も、訪問先で話を伺った時も、自分が考えてい

たこととは違う視点から物事をとらえているなと思ったことがありました。それはいろいろなことを知っていて様々な切り口を持っているからなのだと思いました。このことは 5 月の山中合宿の時から感じていました（※補足：政経学部では、前期にノースイースタン大の学生を短期留学で受け入れ、政経学部“サポーター学生”との山中セミナーハウスでの合同合宿を実施しています）。ノースの学生たちがどんどん発言しているのを見て、彼らは広い知識や情報に基づいた自分の意見を持っている、僕は議題についての知識もほとんど持っていない、この差を痛感しました。広い視野で物事を見ていけば大量の情報が流れ込んできて知識にできて、自分なりの意見を持つことができるのだと思います。物事の見方が変わったことは、今後勉強していく中でも僕にとって大きな変化です。

（S さん）一ヶ月ほどの長期滞在は初めてであったということもあり、故郷日本の大切さを学ぶことが出来た。初対面の人との集団生活は予想以上に大変で、そこから学ぶことは多かったように思われる。今までいかに自分本位に生きてきたかを、他人との共同生活によって実感することが出来た。普段の生活では感じなかった、日本にいる家族や親しい友人の存在はとても有難いものに感じられたし、また、そんな存在が自分にはいるのだという事実の幸福さに気づかされた。

（Q さん）私はこのプログラムに参加して本当によかったと感じています。今でも写真を見ながら 8 月のことを思い出しては頑張ろうと気持ちを入れたりしています。この短期留学はただの語学留学ではなく、勉強の面でもそれ以外の面でも短期留学以上のことを学べた一か月でした。

コミュニケーション全般についての感想

（V さん）特に印象的だったのは、「言葉を発することの大切さ」であったと考えている。海外に一ヶ月という長期滞在するのは初めてで、英語に自信がなかった私は、英語を話すという行為に全く自信がなかった。【中略】しかしながら、例えば、飲食店で使う“For here or to go?”や、簡単な挨拶でもある“You're welcome.”のような簡単なフレーズでも相手に伝わることがわかると、それが英語に対する小さな自信になった。中学生レベルの英語でも、相手に伝えることが非常に大事なのだとわかった瞬間であった。同時に、ある程度は英語のフレーズを覚えることも重要だと思った。相手の会話に対して、じっくり考えて話すよりも、条件反射のように「パッと」伝える方が、相手にとって気持ちがいいだろうし、コミュニケーションが取れているような気がした。そのためには、簡単な英語のフレーズを出来るだけ覚えることが不可欠だと気づいた。

（R さん）英語を学び初めてからはや 10 年近く経つ人間の能力が、ここまで通じないとは思わなかったので衝撃的だった。例えば買い物で会計をする時。ボストン辺りで何か買うときは身振り・手振りを使うことができたのでまだ簡単だった。しかし、ニューヨークのように人が多く、短い時間でコミュニケーションを済ませないといけない時は大変だった。この点で映像付きのダイアローグ（※補足：引率教員である松崎が担当科目「留学準備講座」で用いているオリジナル教材）学習は効果的だったと思う。意外にも人は非言語のコミュニケーションを使っているということに気づいた。

（E さん）今回の研修を通じて、頭の中で話す英語を考えるスピードと実際に英語を話すまでの大きな時間的な差を感じ、これを少しでも埋める努力をしなければならないと、私は認識した。ノースイースタン大学の教授方は、非常に聞き取りやすい、ゆっくりとした英語で我々に対応してくださった。しかし、例えば現地の人や店員、職員と話すとなると状況は異なる。ここでは、伝えたいことを速く適切に話す力が求められる。一定以上のスピードで話さなければ、会話は成り立たなくなってしまう。このネイティブと同じテンポで切り返せるようになるために大切なことは、反復である。具体的な練習法として、シャドーイングや自分の話した内容を録音してそれを聞きなおすこと、そして「TED」などの英語サイトで幅広い英語に触れることが挙げられる。高校までの英語学習では読み書きに時間を割いてきたが、これから実践的な英語力を身につけるには先に述べた要素が求められる。

（P さん）今回の留学の中では多くのことがありました。ありすぎて頭の中を整理するのに必死です。ただ、その中でもはっきり得たと感じるものがあります。自信です。まず、僕は誰よりもこの留学を楽しみました。自信を持って言い切れます。知り合いが一人もいない状態から 1 カ月楽しみ切り、かけがえのない仲間を持てたことは根暗な僕を変えてくれました。また、英語でのコミュニケーションにおいても自信がつきました。【中略】僕の英語力の低さは群を抜いています。その中で、講義を受け、ノースの学生と話し、店員さんと話し、と英語に触れていくうちに、英語力が上がったとは正直思いませんが、英語でのコミュニケーションにストレスを感じなくなりました。【中略】自信を持って支離滅裂な英語を話せるようになりました。

（K さん）なまりがなくて聞きやすい英語、なまりがきつい英語、ネイティブでない人の英語。英語という一つの言語にもかかわらず、話す人のバックグラウンドによって全然違うことに驚きました。私は日本において、方言はあっても根本的な違いはないように感じていました。もしかしたら私が日本人だからそう感じるだけであって、アメリカの人にとってはどの英語も“英語”なのかもしれません。しかし、私にとって耳に入ってくる英語の違いは大きなものでした。

（F さん）英語力についてですが、たった 1 か月でもひとまわり成長しているように思います。スピーキング力はとても自分から声をかけることができるほどではないけれど、ちょっとした会話ならできるようになったのではないかという気がしています。単純にリスニング力というのも確実に成長している。留学前は、なかなか思うように自分の英語力が伸びず、まるで見えない壁にでもぶつかっているかのようなことを思っていましたが、今回の研修の中でその壁を乗り越えることができたのではないかと強く思います。

（C さん）全体を通して、外国で生活するときや外国人とコミュニケーションをとるときにやはり英語を聞く力がないとうまくいかないことを感じました。自分から伝えることに関しては知っている表現などを使えば苦労はあまりありませんでしたが、相手が言っていることがわからないと質問もできないし、自分の意見を持つこともできませんでした。この点が研修を通して見つけた、今の僕にとって最大の課題の一つです。

（U さん）ノースイースタン寮における生活も含め、1 ヶ月間自宅を離れ生活したことは非常に良い経験となった。まずスーパーで何を買ったらいいかわからない、洗濯のやり方が掴めないなど自

分の生活力の無さを痛感されられた。日本でもそういう部分にもっと意識を持って生活していくことが重要だと感じた。また日常生活でよく使われる英語を学んでおくことも大事だとわかった。特に外食の際、思うように英語が出てこなかったため、注文ができない、または言いたいことと違う意図で従業員に伝わってしまうことが多々あった。さらにスーパーの商品、レストランでのメニューの英語が分からずしばしば苦労した。日常生活での英語はできると高をくくっていたので、鼻っ柱を折られる結果となった。

（S さん）語学力については、日常会話程度ならなんとか、といったケースもまま見受けられたが、授業やブリーフィングでの専門的な英語になるとそれは非常に乏しく感じられた。しかし、研修中に多く英語に触れたことで序々に耳が慣れていき、英語を逐一日本語的に頭の中で解釈するのではなく、英語らしい思考回路のまま頭に入っていくようになった。結論が先に来てシンプルで明確な英語の構造を身につけたことは、日本に帰ってからも人の話を聞くときや自分が話すときにとても役立っていると感じている。

（M さん）帰国した今、友人や家族から「１か月もアメリカにいたのだから英語はもうペラペラになったでしょ？」とよく尋ねられます。あまり積極的に英語を話すことができなかった自分がいたので、正直、研修に参加する前後で英語力が上がったのか分かりません。ただ、英語しか通じない環境にいたことで、英語を話すことに対してのある種の抵抗感は消えたように感じます。というのも、先日外国へ旅行した際に、日本語の通じないホテルマンに友人が日本語で話しかけると“English!”と英語を求められる場面がありました。そのときすかさず友人に代わって英語で状況説明していた自分がいて、そんな自分に驚いてしまったことを覚えています。こんな些細な出来事でも、以前の自分だったらきっと沈黙してしまうことを考えると、１か月のアメリカ生活で自分が少し成長できたといってもいいのかな、と思います。

NU 教授による講義についての感想

（H さん）大学での授業では日本とは違う授業のスタンスに戸惑いを覚えた。教授は授業中にも授業後にも、生徒側からのリアクションを求めてくる。応えようとは思っているのだけれど、授業を受動的に受ける態度が染みついてしまった自分から抜け出すというのは、相当な努力を要したし、またなかなか実行できなかったというのが現状であった。教授は質問すればするほど、その質問に関連する事柄を説明してくれたし、教授自らの意見も伝えてくれていた。生徒側が意見を言えば教授との距離感も薄れていった。常に問題提起をしていく態度が身についていないというのは、授業ごとに損をしているのだなと感じた。これからは、日本でも常に自分の身の回りで起こっている事に対して能動的に考え関わっていきたいと思っている。

（K さん）ノースイースタン大学での講義は本当に貴重な経験でした。少人数だったこともあり、先生方の存在がとても近くに感じて一生懸命聞こうと頑張りました。質問の時間が長かったり先生から意見を求められることが多かったりと日本の授業スタイルと違う部分が多くて戸惑いましたが、今まで受け身で授業を受けていたことに気づくことができ、積極的に授業を受ける楽しさを感じる

ことができました。私個人の意見を持つためには、普段からアンテナを張って政治や経済の情報を集め内容を理解することが必要です。私は、自分の基礎知識の無さに愕然としました。どんなに素晴らしい授業でも、受ける側に知識がなければその授業の価値が半減すると思います。ノースイースタン大学で授業を受けて、先生も生徒も勉強するということに対してとても意欲的であることがわかりました。

（D さん）ボストンでは今回の留学のメインイベントであるノースイースタン大学での講義を受けた。各講義はそれぞれ日本ではなかなか学べないような貴重なことばかりで、ためになるものであった。特に政治学科の私にとっては、トリー先生のアメリカ政治についての講義が特に有益であった。ワシントン DC の構造についてなど、なかなか日本では得られない知識を得ることができ、ワシントン DC 訪問などとも合わせて、アメリカの政治事情を肌で感じることができた。それまで専ら日本の政治に興味があった私だが、これをきっかけにアメリカはじめ他国の政治にも興味がわくようになった。

（N さん）ノースイースタン大学での講義は私にとって非常に興味をもたせるものでした。ナショナリズムや環境など今まで知らなかったこともたくさん聞け、英語に必死についていく緊張感を久々に感じました。私は環境ボランティアサークルに所属しているので、Bellino 先生の講義に一番興味をもちました。アメリカで環境のことを考えて水筒を持参している方がいるとは思わなかったので尊敬しましたし、自分にもできることがあると再確認できました。また、D'Agati 先生のナショナリズムのお話もとても興味深かったです。英語での授業はやはり難しいのですがそれだけ集中でき、学ぶことも多かったと思います。アメリカの大学で講義を受けられるという貴重な体験でした。

（U さん）ノースイースタンでの講義は、英語を聞き取らなければならないという点で難しかったが、講義の内容は我々の知識で対応できるものだった（もちろん教授の方々が我々の為に講義を容易な内容にしてくださった可能性が高いが）。この経験は私の英語学習におけるモチベーションを大いに高めた。今後は TOEFL・TOEIC 対策を中心に英語学習を続け、講義を受けるにあたって十分な英語力を身につけたいと考えている。それと同時に、ノースイースタンの講義を受けて、明治で受けている授業のレベルも海外の大学に匹敵するくらい高いのではないかと考え、明治の授業も含めた日本での学習の必要性も感じた。

（O さん）自らの政治的知識及び教養を高めることができました。ノースイースタン大学での講義を受け、アメリカをはじめとして世界規模の社会問題や環境問題、移民問題や国家安全保障など、様々な分野の学習をすることができました。講義が英語で行われたことから、そこでもやはり英語を聞き取る力のなさを実感しました。そのため内容を理解した上で教授に質問することが最初は困難でしたが、講義が進むにつれて、授業中懸命に探した疑問点や、前もって調べたり学んでいたりしたことを教授に質問することができるようになりました。このように、徐々により積極的に授業に参加するようになっていったことが大きな成果ではないかと思います。さらには、各講義を通して自分の特に学びたい分野がよりはっきりするようになりました。昨年教養演習でアメリカの社会問題を学び、移民の教育に関する論文を書いていたので、今回の Rabrenovic 先生の講義は特に身が入りました。移民問題に対する興味がより強くなり、今後も大学で勉強していきたいと思うように

なりました。

（B さん）今回の研修では幸運にも 1 年生ながら行く機会が与えられて素晴らしい体験をすることができました。ボストンでは、ノースイースタン大学の寮に滞在し、大学の教授陣から高いクオリティーの授業を受けることができました。授業ではかなりの部分は聞き取れましたが、質問をするときに辞書を多用したり、質問をしても時々答えがわからなかったりと自分の英語力のなさを痛感しました。

特にボストン（NU 大）滞在時についての感想

（B さん）大学の寮の施設の充実ぶりにも驚かされました。日本でもこういう寮があったら入るのにと思ってしまいました。交流もとても有意義なものになりました。自分が言いたいことを英語で相手に伝えることができた時はとてもうれしかったです。今後もこの交流を絶やさずに続けていきたいと思います。

（U さん）ボストンのノースイースタン大学周辺は学生街なので非常に落ち着いた雰囲気であるが、少し外へ出れば、プレデンシャルやクインシー・マーケットなどショッピング街が広がっていて面白い。またハーバード大学や MIT といった有名大学も容易に見学することができ、大いに刺激を受けられる。

特にニューヨーク滞在時についての感想

（D さん）ニューヨークでは、そこがまさに「世界の中心」であることをまざまざと感じさせられた。タイムズスクエアではあふれんばかりの人々の熱気を感じ、メトロポリタン美術館ではその圧倒的な収蔵品の数と多国籍さに驚かされた。ウォール街はいうまでもなく世界経済の中心であり、国連本部では、そこが世界の安全と平和の砦であることを、その威圧感や職員の方の説明から実感できた。かと思えば 5 番街では贅沢の限りを尽くしたブランド品が並び、通りではあらゆる国籍の人とすれ違う。政治を除いたあらゆる面において、ニューヨークは「世界の中心」であり、躍動感があって見ていて非常に楽しい街だった。

（N さん）個人的にはニューヨークのグラウンド・ゼロやブロードウェイミュージカルを見ることができたこともとても印象に残っています。2001 年のテロから 10 年以上がたち跡地もすっかりきれいになっていましたが、他の場所とは少し違う空気が流れていると感じました。アメリカ人のテロやアルカイダに対する考え方や思いは、日本人が思うより強く激しいのだと実感しました。また、小さい頃から憧れていたブロードウェイでのミュージカルは夢がかなったようでとても興奮しました。アートの街ニューヨークを満喫できた気がします。

（U さん）ニューヨークはタイムズスクエアや五番街などは見ているだけでも楽しく、ジャズやミュージカルのレベルの高さに感銘を受けた。またロックフェラーやブルックリンからの夜景は想像

以上の美しさである。

特にワシントン D.C.滞在時についての感想

（D さん）最後にワシントン DC に行った。ここはまさしく世界政治の中心であり、政治学科の自分にとっては特にわくわくする施設が集まっていた。ホワイトハウス、国会議事堂、ワシントン記念塔、各省庁、大使館、世界銀行。これらをたった 5 日間で見れたということで、留学全日程の中でも特に濃密な日程であったと思う。また、無料ということで数多く回ったスミソニアン博物館。無料でこれほどの展示を見ることは日本ではなかなかできないことであり、アメリカの歴史から航空・宇宙に至るまで数多くのことを学べた。

（H さん）特に日本大使館で藤崎大使が行ってくださったブリーフィングでは、やはり英語の習得が欠かせない事、また近代の歴史から私達は学び、経験を補っていかなければならない事、そして教養を身につけるべきだという事、以上三点をこれからの私達に必要なこととして挙げてくださったことが印象深く、実践したいと思った。

（P さん）世界銀行や大使館でお話を聞くということはおそらく二度とないであろう大きな経験です。大使からもらったメダルや、世銀で食べた朝食のレシートは僕の大切な財産です。また、僕は美術館や博物館といったものが好きではありませんでした。静かに何かをするという行為が苦手だからです。この性格のため何度迷惑をおかけしたかわかりません。すいません。しかし、D.C.で行ったニュージアムやホロコースト美術館は僕の価値観を変えました。9.11 の写真、ナチス政権下の映像を見た衝撃は今でも忘れられません。行かず嫌いだった美術館や博物館に日本に帰っても行ってみようと思えたのはこの経験があるからです。

（N さん）1 か月の研修の中で得たものは自分の将来に対する考え方です。いままで将来のことについてあまり考えていなかったのが原因かもしれないですが、国連や大使館、世界銀行への訪問でかなり刺激を受けました。そこで働く方々はみんないきいきして見え、自分のやっている仕事が、自分がやりたい仕事であるのだと思いました。大使館や世界銀行での英語を勉強しなさいというお言葉が今までで一番説得力のあるものであったし､また自分も TOEIC の点数が下がってしまったこともあり、英語に対する気合いを入れなおすことができました。また、大学卒業後にどうするかきちんと向き合わなければいけないという危機感も覚えました。いままでは大学院に進学することは考えていませんでしたが、今では国際機関などで働くことを視野に入れ、今後の幅を広げるためにも院への進学も選択肢にあるのではという思いもあります。実際に働く方々のお話を聞けたことはとても有意義でした。また、偉い人は性格がきついという私の勝手なイメージも覆りました。みなさんとても気さくで、自分の仕事に誇りを持っているのが伝わってきました。

日本とアメリカの比較という観点からの感想

（I さん）文化については、友人、店員、地下鉄等を通して、アメリカの自由でアバウトな国民性を

知ることができたとともに、日本の丁寧さ、まじめさを認識することができた。「日本を出てこそ日本の良さを知ることができる」とよく言われるが、まさに体現することができた。

（L さん）文化だけでなく、歴史についてもボストン、ワシントン DC の街や博物館を訪問することで詳しく学ぶことができましたが、その中で、アメリカの人々が自分たちの国の歴史に対して強い関心を持っていて、よい歴史も悪い歴史も大事にしているのだと思いました。特にアメリカ歴史博物館は、産業の発展などの他にも、南北戦争やベトナム戦争などは資料も多く、実際に起こったことをリアルに表現していました。また、ノースイースタン大学の学生がボストンのフリーダム・トレイルを自分たちが訪問した際に訪れた場所の歴史について詳しく説明してくれていた時に、彼らのように自分は日本の歴史について相応に説明することができるだろうかと疑問に思いました。自分たちも勉強している歴史を大事にして、海外の友人が日本に来たとき等にしっかり説明できるようにならなければいけないと思いました。独自性を強く持っていて、大切にしているのがアメリカという国だということが留学を通して学べました。

（F さん）今回の研修を通して学んだことはいくつかあるが、まず最初に、私は海外というのがどういうところなのかを知ることができた。今回の研修が自分にとって初めての海外体験であったので、海外というのがどんなところなのか聞いた話でしか分からなった。一番気になっていたのは治安に関してであった。日本は他国に比べて非常に平和であり、他の国は危険であるという話をよく耳にしていた。しかし、実際に海外に来て 1 か月滞在したが、特に危険な出来事に直接出くわすことはなかった。安全なところを通っていただけかもしれないが、海外だから危ないと決めつけるのは、間違っていた。こうして考えてみると聞くだけではなく、何事も実際に体験してみなければ本質はわからない。

（T さん）私は海外に出るのが初めてだったということもあり、日米の文化の違いを感じる場面も少なくなかった。大学のシステムや国際機関だけでなく、ありとあらゆるところに違いはあった。物価をはじめ、チップ制度、店員の愛想のなさ、街中にいる人たちの陽気さや馴れ馴れしさなど、海外の空気に触れられてよかったと思う。おつりの１セントを勝手に募金箱に入れられたときは、１セントに対するアメリカ人の扱いが一瞬でわかった。こういった気づきも海外研修ならではのものなので、多くの面で楽しめた。

（A さん）自分の中のアメリカのイメージがメディアや他人の信憑性に欠ける話により作られたものだったということに気づき、何事も自らで経験してみることが大切だと思った。

1ヶ月生活を共にしたメンバーおよび関係者について

（I さん）サークルとは違ったよりオフィシャルな環境で同じ目的をもった仲間と 30 日間を共にした。初めはお互い気を遣って生活するのだが、一週間程度すると一人一人の性格がよくわかってくる。その中でどう上手く付き合っていくのか。非常に勉強になった。これは団体で研修に参加してこそできる貴重な体験であって、社会に出たら最も必要となるスキルであると思う。今後何か団体に所属するときには今回の経験を活かし、更にそれを磨いていきたい。

（Q さん）このプログラムに参加したとき、もともと知り合いだった人はほんの数人でした。それが事前講座、懇親会、そしてプログラムを通してこんなにもみんなと仲良くなれて、今でも Facebook などの SNS でつながっています。これは一か月間生活をともにしていたらなれるレベルを超えている仲のよさだと思います。その理由としては、とてもハードなスケジュールを同じ目的を持って一か月を走り抜けたからだと考えています。途中で体力的にも厳しかった人もいたけれど周りの友達がその分をカバーして全員でこのプログラムをクリアすることができました。特に途中で 4 回行った YouTube entry の課題は友達との仲を深め、いい思い出ともなる素晴らしい課題だったと感じています。次の課題はどこでどんな風に撮ろうかなどの話し合いもとても心に残っています。

（N さん）寮での生活や 1 か月間の集団行動も最初は不安でした。家族のありがたさはもちろんのこと、周りの人とともに生活する大変さも実感しました。1 か月の集団行動は初めてでしたが、みんないい人だったので最終的に楽しかったことしか覚えていないくらい、楽しむことができました。1 か月の間にいろいろな人と話すことができ、普段あまり話せない上級生の方たちとも話す機会があって刺激をうけました。2 年生が多かったことも私にとってとてもうれしかったです。今後につながる関係を築けたと思います。この 1 カ月は人生で一番中身の濃い 1 か月になりました。たくさんの学ぶことや考えるべきことに出会い、私もまだまだという気にさせられました。周りの人々すべてに感謝の気持ちでいっぱいです。これを今後にいかして、自分を見つけたいと思います。貴重な経験をありがとうございました。

（U さん）留学中僕を支えてくれた仲間たち、TA の小島さん、プログラムの為に尽力してくださったボッソ先生、積極的に交流してくれたコーリーをはじめとするノースイースタンの学生たち、そして引率して下さった松崎先生に感謝の意を表したいと思う。

（I さん）この研修は今まで生きてきた中で最も充実した 1 ヵ月となった。これ以上充実した日々は今後訪れないのではないかと思えるほどである。これを通して得た経験をこれからの自分の人生に役立てていきたい。最後に、引率して下さった松崎先生、T.A の小島さんを始め、大六野学部長、現地で我々の世話をしてくれた方々、そして一緒に生活を送ってきた仲間に心からの感謝を申し上げたいです。本当にありがとうございました。